

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
高田 明典			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
小ヶ谷 千穂		フェリス女学院大学 文学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
コミュニケーション専門ゼミIIB	FERa-090602-2	11人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

テキスト分析における様々な前提知識の習得に時間が必要であった。また、テキスト分析の原理および数理の理解を醸成するには、十分な時間が必要であった。特に、本調査においては、統計解析パッケージRを主として用いたが、その操作方法の習得には、かなりの時間が必要であった。学生は、おおむねよく理解し、比較的難度が高いと思われる分析に関しても、十分な調査分析を行うことができた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

文化現象の質的分析

2. 調査の内容／概要：

1979年から2009年にかけて発行された少女コミック雑誌をおよそ10年ごとに抽出し、そのセリフ部分のテキストを双対尺度法（潜在意味分析）によって分析し、意味構造を抽出した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

少女向けコミック雑誌は、女子児童・女子生徒の価値観の形成に大きく影響していると考えられる。また、20世紀中盤から現在までにおいて、女子児童・生徒の価値観は、大きく変遷している可能性が見受けられることから、その変遷のありさまを見るべく、長期間にわたる少女向けコミック雑誌のテキスト分析を行った。

4. 主な調査項目：

少女向けコミック雑誌のセリフ部分。発行年。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

手作業入力による。コミック雑誌の収集に関しては、漫画専門古書店、ネットオークションなどを利用した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2009年10月から2010年1月。日本で発行された少女コミック雑誌を対象とした。調査員の数は計24名（調査協力者13名を含む）。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収率及び回収率を必ず記入）：

入力した作品数は計155タイトル、合計398671文字 / 25905行であった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

単語出現頻度の分析と潜在意味分析。単語出現頻度の分析により、各発行年ごとに出現する単語の種類の違いを抽出し、比率検定を行った。また、潜在意味分析により、全体の意味構造の抽出を行い、検討した。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

人称代名詞の出現頻度に、統計的に有意な差が見られた。また、潜在意味分析により孤独 - 凝集軸が主たる意味構造として抽出された。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2010年春の情報処理学会全国大会で発表。また、多文化コミュニケーション論叢において「潜在意味分析の数理と原理」の題目で、事例と解釈を発表。